

- 1 区新年会
 - 2 区新年会
 - 3 区新年会
 - 4 区新年会
- 提出期限の延長
確定申告会だより
『保護講習会』
夜間講習会
春・室津・法然

ホームページ: <http://kakogawa-riyo.com>
メール: info@kakogawa-riyo.com

2区) 区会&新年会

昨年までは東加古川の「弁慶」で開催していたので料理内容の心配は全くなしでしたが、今年は初めて

会は始まりました。

副支部長の乾杯の音頭で新年

区会は例年通り順調に進行して、あつと言の間(10分程)に終わり、写真撮影を店のお姉さんをお願いしました。私が用意したデジカメが古いせいか、なかなか綺麗に撮影できず(お姉さんの腕が悪いわけではありませぬ)、支部長のスマホでも撮影して頂きましたが、今時はスマホの方がきれいですね。



の気配も見えませんが、暖かくなればウイルスも治まり、オリンピック気運も景気も高まると信じて頑張ろうと言う気になりました。

2区 平賀 勲美

「寒風」と言うんですか、2月にしては穏やかで暖かい10日、2区の区会、新年会を「ごちそう村」播磨町店で行いました。年々参加者が減って、今年は遂に10人を下回って6店舗8名の参加です。(さみしく!)

の「ごちそう村」だったので内心少し心配していましたが、味も普通美味しく、内容も値段の割には良かったのですが、量が少し少な目かな、でもコストパフォーマンスはまあまあで、一安心です。座席も椅子席で腰が悪い私でも楽し

1区) 区会&新年会

生憎の雨模様の中、令和2年1月27日「季節料理 居酒屋 和輝」に於いて1区の区会新年会を参加者9名と三役の先生方の出席を得て総勢12名で行いました。



新年会がスタート各テーブルを挟み昔話から今時の話まで、色々な会話があり、お酒も飲み、あつと言の間約2時間でした。お腹も、心も満たし花本総務部長の閉会の挨拶で、参加者全員帰路に着きました。参加して頂いた、1区の皆様、三役の先生方ありがとうございました。

1区 宮下和也

4区) 区会&新年会

後、村井副支部長から乾杯の音頭が終わり、各テーブルに、板長さんに頼みまして、毎年同じにならないように、いろいろと考えていただいたメニューを食べながら、皆さんそれぞれの話題で盛り上がり



4区 北尾博正

令和2年度、区会・新年会を2月17日に昨年と同じく宝殿駅・北側、船が、目印の『源べい』にて行いました。参加者は四区8名支部三役が3名で11名で行いました。午後6時より、先ずは、区会の議題を進めましてから、昨年10月に、組合から退会された丸山さんより、皆さんに向けて挨拶をして頂きました。各支部の役員さんから連絡事項を報告して頂きまして区会を終わりました。

3区) 区会&新年会

2月3日、暖冬でなかなか冬を感じられないなか、今年有加古川で人気の『居酒屋 足跡』、東加古川駅前にて区会・新年会を開きました。



今回のメニューは『呑み放題付うにしゃぶコース』でした。前菜にサラダ、お刺身盛り合わせ・枝豆・揚げ出し豆腐・・・そしてメインは生うにと鯛と牛のしゃぶしゃぶ。うにを鯛のお刺身や牛肉で巻いてしゃぶしゃぶにしてもよし、取り皿に潰して火をさつと通したお刺身やお肉につけて食べてもよし♪ 締めはうどんと雑炊から選べました。こんな時は人数多いと良い事ありますね、どちらの締めも食べられます。ここはお酒の種類がとても豊富でした。日本酒はかなりの品ぞろえで焼酎も種類が多く、チューハイ・ハイボールなんかも色々な種類が置いてありましたよ。『加古川ハイボール』なんて言うオリジナルハイボールもありました(残念ながらぼくはハイボールが苦手なので手を出しませんでしたが)。もちろん肴があつてのお酒、お料理も美味しかったです。幹事さん、今年の新年会の料理も美味しかったです! お店のチョイス御苦労さまでした!

3区 山岡秀二

確定申告提出期限の延長

今年も例年同様、2月17日より確定申告が始まっています。早い方は提出されていると思いますが、今年「新型コロナウイルス」の感染拡大で人混みを少しでも減らすため、提出期限が3月16日から4月16日まで延長されました。消費税の申告も3月31日から4月16日まで延長されました。しかし、納税協会での確定申告相談は、例年通り3月16日まで、消費税も3月31日迄です。相談される方はお早め! 青色部長 河東一義



播磨学園、見事な逆転劇！

毎年7月に行われている理容組合野球部と播磨学園の生徒さんとのソフトボール、この度加古川保護司会の出している広報誌『保護司会だより』に去年の試合の記事が掲載されたので、それをそのままこちらにも転載したいと思います。

『社会を明るくする運動』親善ソフトボール試合が7月9日(火)、同学園にて恒例の加古川理容



組合との対戦で実施されました。木下恵介副会長のご挨拶、畑邦夫先生(主審)の『プレイボール』から始まりました。試合は5回を終えて10対5で理容組合がリード。残り時間からあと1回となりこのまま終わるかとも思われましたが、ここからドラマが始まります。6回の表に播磨学園が2アウトから打線がつながり大量8点をもぎ取り、3点リードの大

逆転となりました。ここで、理容組合チームは陣を組んで本気度120パーセント。それに対して、学園側もベンチの最前列に並んで応援し、手に汗握る好ゲームとなりました。結局、学園チームが最終回に声を出し合ってしっかり守り13対10の見事な逆転劇となりました。

学園生にとつては、辛抱強く粘り6回表の集中力とチームワークで勝利にかなげられたのが良かったと思います。そして、理容組合の皆様の大人としての心意気にも拍手を送りたいと思います。観戦した者も心豊かになり、梅雨の晴れ間に実りの多いイベントとなりました。

(八幡町 加古博志)

夜間講習会

2月20日(木曜日)、毎年恒例の支部夜間講習がヘアーサロンタカギで開催されました。

昨今お肌が敏感なおお客様が増えてきて、そんなお客様の悩みを解決できる(かも?)!!!そんな

な教材『オイルケア』の講習。講師はご自身のお店でも、そしてご家族もオイルケアを愛用されている内田久講師(神戸西支部)に来ていただきました。

オイルケアの実演の前に、オイルケアとは何か?の説明から始まった今回の講習は今までの夜間講習とはひと味もふた味も違いました。

モデルさんの手の甲をオイルで洗浄していくと、みるみる白くなるモデルさんの手の甲。触ってみるとツルツルなのにしっとりしている。使用した教材が泡のたないシャンプー(みたいなも

の)って説明で参加者の皆さん大驚き!!!『皆さん自由に試してみてください』と言った講師の言葉に甘えさせてもらい、会場のあちらこちらで即席体験会が!!!実は今回、オイルケアを愛用されている他組合の方もアシスタントで参加して



れていまして、使用方法や自店でのやり方などを教えてくれました。そのお陰で参加者の8割りほどの方々が実際に体験することができました(アシスタントの皆さんありがとうございました)。頭皮のクレンジングでは、

『ちよっと驚いた!!!』『お肌が全然違う!!』『軽いタッチでこんなに取れるんだ!!』『お店で使ってみよう』等々、体験された方から沢山の感想をいただきました。

剃りもされていたのですが、モデルさんも急遽動画撮影をお願いしていたほど気持ち良さそうでした、『私の理容師人生の方向性が変わった!!!』と体験されたモデルさんも大興奮でした。

『何かやらないと変わらない。お店を何とかしたかったんです!!!』『そんな思いからオイルケアを導入された内田講師、その良さを参加者さんに伝わりやすい様に楽しい雰囲気を作ってくれていた講習から、講師のお店もお客様に楽しんでいただく事を第一に考えられているのが伝わって来ました。』

今回は27名という過去にない多数の参加人数でした。理事役員の皆様講習のお声かけをしていただきありがとうございました。そして忙しい中、参加していただいた皆様ありがとうございました!!!

普段のシャンプーでは落とさきれない過酸化脂質がどっさり取れて、その汚れの多さに驚きの声が!!!そして肌に付いた油性のマジックも綺麗に落とせる。つて事を聞いて、油性のマジックで落書きされた顔も綺麗に元通りになり、これまた驚きの声が!!!そんな声があちらこちらで聞こえてくる、今までにないほどの盛り上がりでした。『見た目触った感じもしっとりして

オイルケア教材、ご希望の方は山崎までご連絡お待ちしておりますね。

教育部長 山崎裕史

春・室津・法然

『あの雲が落とした雨にぬれている』山頭火。京都祇園の芸妓『小梅』が『月様が・・・』といえは『春雨じゃぬれて行こう』といったのが勤王の志士 月形半平太。春雨に濡れて風邪を引くのもいやや世界中がコロナウイルス問題でテンヤワンヤの大騒ぎ、感染された人はとにかく早く完治してほしい。

そして季節は春、節分から立春、雨水、啓蟄(けいちつ)、春待つ心は徐々に盛り上がり、光が強さを増す。ものみな生き生きと輝き早春の山々の木々が陽光を浴びて、まるで山が笑っているみたい。街中では支部長主催ではないが『ヤマザキ春のパン祭り』もにぎやか。

二月半ば『たつの市』の綾部山梅林に梅を観に行きました。梅も美しかったが、メジロの多さにびっくりでした。梅といえば綾部山のとりの室津が有名です。

播州室津、江戸時代は西国大名の参勤交代の寄港地として栄え『室津千軒』と呼ばれ、遊女宿もありました。これより『室津有情』参承元年(一二〇七)春三月十八日室津に流人を乗せた一艘の船が入港した。

流人の名は法然、そうです浄土宗の開祖法然上人です。年齢は七十五上人の弟子二人が後鳥羽上皇の女官との問題で罪人になり師としての責任を問われ四国への流罪の途中、風待ちのため室津に寄った時の事が伝えられています。

一艘の小舟が近付いて来ました。室津の遊女が乗った舟です。『近ごろ都で名高い法然上人のお船と聞いてやってきました。私のような生業のあさましい身はどのようになれば後生に救われるのでしょうか』遊女の真剣な問いに上人は答える。『あなたのような世渡りはたしかに罪の深いことと思われまふ、もし他に生活の方法がなければ、今の境遇のまま強い信念でお念仏を唱えなさい。阿弥陀仏は自らの罪業に泣く者のために誓願をおたてになられたのです、決して自分を卑下することなく念仏すれば必ず浄土に生まれることができます』

遊女は上人のこの言葉によって心を開き涙を流して喜んだ。翌年赦免されて都へもどる上人が再び室津に寄港する。よほど気にとめられていたのである遊女は消息を土地の者に聞くと、『上人の教えをうけたまわってからは近くの山里で一筋に念仏生活をしておりましたが、先ごろ病にて安らかに往生の望みを果たしました』それを聞いた上人はひとこと「しつらんしつらん」と言って喜ばれたという。

『遊女とはいえあのような清らかな心で素直な女人であるから浄土に生まれ間違いなく往生した事であろうよ・・・』八百年前の時空のドラマでした。

室津の丘に上人の旧跡がある浄雲寺です。山門より室津の海を見ていると、銀色の鏡のような海が、やがて夕焼けにより朱色に染まりました。遠い昔一人の淑女が室津の大地に還って行った。梅の花香る大地に。

潮騒がどこまでもおだやかだった、優しい春の風、涙色で吹いていた。

一区 夏の虫は氷を語らず